

テーマ：『地域包括ケアにおける作業療法の未来』

司 会：千葉県立保健医療大学 小林 毅

【シンポジウム趣旨】

高齢化社会に向かう中、作業療法（士）を取り巻く環境もめまぐるしく変化してきている。対象者とその家族を含めた国民の保健医療福祉に対して、住み慣れたところで安心して生活することを支える作業療法（士）は、年齢や障害に限定されず広く有効に活用できるものと考えている。しかし、千葉県内の作業療法士の対人口比は、全国でも4番目に少なく^{注1)}、県民に対して十分な作業療法が提供できているとは考えにくい。

厚生労働省としての政策の中では、「地域包括ケア」がキーワードとなってきた。今回のシンポジウムでは、県民に「安心で、希望をもって住み慣れたところで生活する」ために、作業療法（士）の現状と未来について、全国的な視野と千葉県内の動向を踏まえながら「作業療法の未来」を考える機会となれば幸いである。

発言者：厚生労働省障害福祉部 課長補佐 君島淳二 先生

千葉県健康福祉部 理事 井上肇 先生

社団法人日本作業療法士協会 常務理事・事務局長 荻原喜茂 先生

一般社団法人千葉県作業療法士会 会長 福田均 先生

第12回千葉県作業療法士会学会 長 岡村太郎 先生

(発言順)

注1)：社団法人日本作業療法士協会調査部 2009年会員動向調査データから

	千葉県	全国
作業療法士会員数	1208名	39241名
	男性：338名	男性：12868名
	女性：870名	女性：26373名
対人口10万人/作業療法士	19.7人/1 OTR	30.8人/1 OTR

OTR：作業療法士